

令和2年度 自己評価表

(西条農業高等学校)

学校番号(10)

教育方針	<p>ふるさとを愛し、社会の変化に柔軟に対応して、地域の豊かな未来を主体的に創造する担い手を育てる。汗を流し命を育む農業教育を通して、豊かな感性と困難を乗り越える強い心意気を養い、専門的な学びを深めて社会に貢献する職業人を育成する。</p>	重点目標	<p>地域に愛され、地域を愛し、地域とともに歩む。西農 —100年分の感謝と新たな飛躍への挑戦—</p>		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	<p>学習習慣の確立</p> <p>教科指導の充実</p> <p>読書指導の充実</p>	<p>教科の宿題・課題をきちんとこなすなど、家庭学習を習慣化させる(平日1時間、考査中2時間以上)。</p> <p>ICTの利用等で効果的な学習を実践するなど授業満足度の向上を目指す。また個々の能力に対応した適切な指導を行う。</p> <p>授業との連携を図り、一人当たり貸出冊数3冊以上を目指す。</p> <p>読書の読書を充実させ、静寂の中で全員が読書を行う。図書委員会活動を充実させ、読書会・ピブリオバトルを実施する。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>家庭学習は2学期の考査中、1年生が107分、2年生125分、3年生105分、全体で112分であり、残念だが目標には到達しなかった。1年生の学習時間が減少した。3年生は進路も決定し、安心した生徒が多かったのではないかと想像される。最終学年としての姿勢や責任感を養う指導が必要となる。</p> <p>生徒による授業の総合評価(板書や説明等)は、概ね良好(3.6/4.0)であった。英語を中心に週30時間に及びぶ支援員の授業補助やルビ付き考査問題作成などの配慮も授業満足度に貢献したと考えられる。</p> <p>授業やH活動との連携においては、概ね達成できたと考えられている。しかし、貸出冊数は増加傾向にあるが、目標としていた3冊には及びず、2冊を少し上回る程度にとどまっている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休業・分散登校などもあり、学校生活・学習のリズムが取れなくなったことなどを考慮に入れても考査に対する姿勢が甘いように思える。学年が進むにつれて高い教値を残せるよう、日々進路実現に向けた強い意識付けや態度の育成を早い段階から行っていきたい。</p> <p>ICTを利用した興味・関心を引き起こす授業展開や学習指導を待った生徒への支援(授業補助やルビ打ちなどの考査配属)を実践し、一人一人を見つけた教育を進め、すべての生徒を社会で活躍できる人間に育てていくという指導を今後も継続していきたい。</p> <p>文部科学省からのアンケートにも回答した通り、司書教諭が図書の整備をできる時間が確保できず、整備が不十分であること踏まえ、来年度は、勤務の効率化などを積極的に進めたい。また、読書との連携においては予算内ではあるが、課題研究などで使用する専門書の購入を考えた。</p>
生徒指導	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>規範意識の高揚</p> <p>学校行事・部活動の充実</p>	<p>長期休業、地方祭明けの欠席0を目指す。身だしなみ指導1回目での合格率90%以上を目指す。 A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:49%未満</p> <p>問題行動発生件数0を目指す。毎月1週間実施する。あいさつ運動を積極的に推進し、</p> <p>全体で90%以上の部活動加入を勧め、学校行事や部活動、ボランティア活動への積極的な参加を促す。 A:90%以上、B:89~75%、C:74~65%、D:64~50%、E:49%未満</p>	<p>C</p> <p>C</p> <p>B</p>	<p>新型コロナウイルスの影響もあり、欠席に関しては指導が今後も難しくなると予想される。そうした中でまずは生活習慣の確立と意欲することの大切さについての意識向上が必要不可欠である。身だしなみ指導に関しては第1回目での台格呼びかけをしつかりと行っていききたい。</p> <p>全体として規範意識に欠ける軽い気持ちでとつた行動によって問題行動が発生している。行動する前にその行動はどのような意味を持つのかをしつかり考え習慣を身につけさせたい。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で部活動も様々な制約が課されているが、そうした中で新しい活動方法や活動時間等の環境整備についてさらに改善していく必要がある。</p>	

教育相談	生徒との面談時間の確保	担任と連絡を密にとり、表情等が気になる生徒との面談をSLAや養護教諭が積極的に行う。	B	自ら保護室に来る生徒には、養護教諭が継続して声掛けを行った。SLAの個人面談は例年、1年生のみの実施であったが、2年生にも実施するなど、生徒に寄り添う機会を増やした。	感情表現が苦手な生徒は、問題を抱えても意に出すのが困難なようなので、来年度は年度当初に心理検査を実施し、生徒の潜在的な心理を把握し、個々に応じた面談を行いたい。
進路指導	進学指導の充実 就職指導の充実	課外への出席率100%を目指し、学びに向かい、学力を高めさせる。 第一志望校への進学100%を実現する。 A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:49%未満 応募前見学への参加率100%を目指し、職業観を確立させる。 第一希望職種(企業)への内定率100%を実現する。 A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:49%未満	B	進路課外への出席率は平均94%で良好であった。第一志望校への合格率は97%であった。	進路課外について、今後も生徒の希望に合わせて個別指導を行う。特に、学科試験や小論文対策などは早めに取り組む必要がある。コロナ禍での進路情報の収集や大学入試改革に伴うさまざまな変更に対応していきたい。
農業教育	<食農科学科> 地域との繋がり、専門教育・研究活動の充実 <環境工学科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	地域活動への積極的な参加を通して、自己の知識・技術の再確認を行い、コミュニケーション能力を高める。 積極的・意欲的にプロジェクト学習に取り組ませること、人間力を養う。 地域人材を活用して国家資格や各種検定等の合格率80%を目指す。 A:80%以上、B:79~70%、C:69~60%、D:59~50%、E:49%未満 農業クラブでの各種発表や競技会及び各種コンテスト等での入賞を目指す。	B	応募前企業見学には学校幹事就職希望者全員が参加し、参加率は286%と1人当たり2~3社参加した。学校幹事就職内定率は100%であり、全員が第一希望の職種への就職が内定した。 コロナ禍で地域活動が制限され、行事が軒並み中止となったが、実施したものに一定の成果があった。また、各専攻班が授業でのプロジェクト学習に意欲的に取り組むことができた。	生徒に適性や能力など自己理解を深めさせ、進路目標を持たせ指導を行う。また早期から職場見学やインターンシップに参加させ、職種や企業理解をさせることでミスマッチや早期離職がないよう適切な指導を継続する。今後とも企業との連携を深め生徒が希望する就職先の開拓を続けたい。 次年度も地域活動の制限が予測されるため、ICTを活用した情報発信などで効果を高める方法を模索したい。プロジェクト学習の成果や検証結果を仲考やメディアでの発信などにより、生徒の自信につながるよう工夫したい。
農業教育	<生活デザイン科> 地域との繋がり、専門教育・資格取得の充実	基礎・基本的技術を定着させ、家庭科技術検定合格率100%を目指す。 A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:49%未満 交流学習を通して、豊かな人間性を育成する。アクティブラーニングを推進し、学びに向かう人間性を育成する。	B	資格試験では、日程の変更などがあり、計画通りに学習が進まず、教員工とも合格者がいなかった。しかし、来年度につながる成果はみられた。農業クラブでは意見発表表においても積極的な取組ができた。	様々な状況を想定して、各種資格試験や農業クラブ活動の計画を立てていく。会議アプリなど、様々な手法を取り入れた学習活動を実施する。多くの活動が制限されること予測されるが、対策をしっかりととり、できる範囲で積極的に活動を行いたい。
農業教育	<農業クラブ活動> 農業クラブ活動の活性化	行事の案内や競技結果を公表し、各種諸行事への積極的な参加を呼びかけ、生徒に主体的に取り組ませる。 県大会での入賞率50%以上、全国大会での入賞100%を目指す。 県大会A:50%以上、B:49~40%、C:39~35%、D:34~30%、E:29%未満 全国大会A:100%、B:99~80%、C:79~60%、D:59~50%、E:49%未満	B	農業クラブの県大会以上の各種競技会は中止となり、生徒の活躍の場が例年比べて極端に少なかった。生徒の積極的な姿勢が見られた。校外の競技会は第二回各種発表大会の発表表の部員優秀1、優秀1であった。数値目標に対し実施数が少ないため、B評価とする。	競技会以外での場でも全校を挙げて農業クラブ活動を盛り上げることでできているが、さらに一般生徒への意識を高めるため、引き継ぎ、単位単位で細やかな指導を行うとともに先輩からの引き継ぎにも力を入れ、今後の各種行事のあり方についても柔軟に対応していきたい。

総務	P T A 活動の活発化と広報活動の充実 校内諸行事の円滑な運営	学校行事への保護者の積極的参加の呼びかけを行い、出席率の向上と広報活動の充実を図る。 各部・各課との連携を強化し、各種諸行事の充実を図る。	B	PTA総会や産業祭など多くの行事が中止・規模縮小となり、できる範囲での活動はできた。各種研究会は、感染症対策を徹底した中での開催であったが、参加できる範囲での活動となった。	情報共有ツール等を活用し、全ての保護者に確実に緊急連絡が届く体制を構築するとともに各種行事への参加の呼びかけを積極的に行う。今年度もできなかった行事を例年以上の成果のあるものに教職員と保護者が一丸となって取り組む、各種行事を充実させたい。
環境厚生	美化意識の高揚 施設・設備の点検、整備	校内のごみ0を目指す。 教育環境（特に施設・設備）の充実を図る。	B	始業前の清掃活動に積極的に取り組み、ゴミの量は昨年度より大幅に減少し、美化意識の向上がみられ、空調設備を整備され、教室の環境改善が図られた。	御清の隅や密集した低木の隙間など目につきにくい場所において、ゴミや落ち葉が散見される。次年度は、御清の隅などの細かい場所にも目を配り、校内の環境整備に努めたい。
研修	校内外研修の充実	校内外における研修の充実を図ることにより、ICTを活用した双方向授業方法を研究し、授業満足度向上を目指す。「主体的・対話的で深い学び」に向けて実践的研修の充実を図る。	A	初任者研修を中心にタブレットなどICTを活用した授業研究をすすめた。県改善推進事業や総合教育センター主催の各種研修・出前講座を積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」、ICT・オンライン授業等の実践技術が向上した。	校内・校外において効果的な研修機会を設け、その充実と成果の共有を図る。また、Wi-Fi環境とタブレットの有効活用を通して、ICT活用・オンライン授業等の実践的研究を進める。さらに、新学習指導要領にそったカリキュラム・マネジメントの研修の充実を図る。
人権教育	人権・同和教育の活性化	人権・同和教育関係の情報発信や研修の充実を図り、生徒の心に響く人権問題学習に努める。	B	西条市の「人権のチカラ」などを活用し、人権・同和教育に関する意識の向上を図るとともに、映画鑑賞会など、生徒の心情に訴える人権学習ができた。	コロナ禍の中で、人権・同和教育に関わる研修会が中止になったり、規模が縮小したために、担任など教職員が十分に参加することができなかった。次年度は、各種研修会への積極的な参加を呼び掛けるとともに、校内研修を充実させたい。
業務改善	勤務時間の適正化	業務の効率化等、時間の有効活用を図り、教職員の勤務時間を守る。	B	校務支援システム、メッセンジャー機能等を活用するとともに、書面関係を取り入れることで業務の効率化に努めた。また、勤務状況一覧表を活用し、教職員に対して、勤務の適正化を呼びかけた。業務の効率化、勤務時間の軽減等、十分ではないが、相応の効果があったと考えている。	今まで以上に業務の効率化、時間の有効活用の研究・工夫を重ねるとともに教職員全体の意識改革を進め、勤務時間の適正化に対しては積極的に関心を持っていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。